

24.2.29

佐倉市

教育センターだより Vol.26

平成24年2月29日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

春を待つときめきをこめて

所長 橋 口 明 夫

年度末を迎えてますが、日々、厳しい寒さが続いています。学校においては、インフルエンザの流行に気をつけながら子どもたちを見守っていかなければならない時期が続きます。

さて、かなり昔に尾瀬を守るドキュメンタリー番組を見ました。人を寄せ付けない厳しい冬。すべてを無にもどす白銀の世界が広がっていました。こんな厳しい冬は、ほとんどの人が嫌いなのではないでしょうか。しかし、この厳しい冬がなければ、尾瀬のきれいな春や夏や秋はない。冬が尾瀬の一年の自然を支えているということでした。動植物にとっては、冬は春を待つ季節であり、ときめきを大きく育てる季節でもあります。冬の苦労が多くなるほど、春の日差しの暖かさを感じる感動は大きいのではないでしょうか。

学年末を迎え、ひたすら努力を続けている子どもたちを見るたびに、尾瀬の自然と映像が重なってしまい、「頑張っているね、もうすぐ春だよ。いつも応援しているよ。」と声をかけたくなります。厳しい冬を乗り越えた力は春から秋へのエネルギーの原動力となり、次年度で大きく飛躍することでしょう。

この時期、学校として大切なことは、子どもや保護者の学校評価等を基に今年度の取り組みの分析を行い、次年度へ向けて具体的な改善策を計画することです。佐倉市教育センターにおきましても、ご協力いただいた学習状況調査の集計と分析を行っています。また、道徳副読本「佐倉の道徳」につきましても活用状況調査をもとに次年度へつながる活用方法を探っているところです。この一年間、佐倉市教育センターへの調査研究に対して、温かいご協力をください誠にありがとうございました。

学年末の忙しい時期ですが、「教育は人なり」です。教職員の健康と学び続ける姿勢が子どもたちを支えています。4月から中学校でも新しい学習指導要領の完全実施が始まります。子どもたちにとって、新年度は心の奥底からわき上がるときめきでスタートをさせてあげたいと願います。同時に、絆を大切にした一年間になるよう、心を育てる教育課程を編成し春を迎えるものです。春を待つ季節が過ぎ、もうすぐ春、大好きな季節です。

〔平成23年度の主な事業〕

佐倉市学習状況調査

学習意欲及び学習・生活習慣に関すること、並びに全学年の国語、算数・数学、英語（中のみ）の基礎学力と、小学校5年生～中学校3年生の国語、算数・数学について活用問題を実施し、状況分析を通して、今後の生活・学習指導に役立てていこうとするものです。

佐倉学道徳の研究【5年次】

先覚者の生き方や偉業を学ぶことを通して、郷土佐倉への愛着を育み、「好学進取」の気風をもった、社会に貢献できる人材を育てるために、行おうとするものです。昨年度配付した副読本の、各学校の実践例を収集し、成果と課題を把握してさらなる活用を図っていきます。

教育相談・発達相談

教育電話相談（ヤングプラザ内）、適応指導教室（志津・佐倉教室）、発達相談（教育センター内）の運営を通して市民の皆様の教育にかかる相談に対応しています。また夏季研修として教育相談基礎講座を実施し、先生方の指導力向上への支援も行っています。

言語活動を位置づけた学習指導法の工夫・改善の研究

佐倉市の子どもたちの課題といえる「言語に関する力」を育むために、国語科のみならず、各教科における「言語活動」を位置づけた授業のありかたを研究しています。

今年度は小学校理科、生活科の授業実践例をまとめました。来年度は中学校に焦点をあてていきます。

“さくら”学びの窓

「思考力を高める学習指導はどうあるべきか」

～話し合い活動を通じて～

佐倉市立志津中学校

志津中学校では、昨年度より佐倉市教育委員会から研究モデル校指定を受け、上記の研究主題のもと、研究を進めています。新学習指導要領の重点や実態調査から明らかになった「説明したり考え方を文章にまとめたりする」ことに苦手意識をもつ生徒の多さから本研究がスタートしています。

平成23年11月2日には、公開研究会を開催し、授業を通して研究の成果を広めました。

研究の目標

学習に対する興味・関心の高さを生かし、基礎的・基本的な事項をもとに考えてまとめ、それらを文章で表現する活動や話し合い活動等を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

仮説1

★「話し合い活動」を意図的にまた段階を踏まえて授業実践に取り入れることにより、より意欲的に学習に取り組み、思考力の育成が図れるであろう。

仮説2

★基礎的・基本的事項をおさえ、それらをもとに自分の言葉でまとめ、表現・発表することに重点をおくことで「思考力」が高まるであろう。

具体的な手立て

事実を多面的に把握させるために複数の資料を提示する。

考えを整理し説明できるよう、多様な表現活動(発表する・説明文を書く・新聞を作る・ロールプレイング・ディベートなど)を工夫する。

思考を深めるよう、考えを伝え合う場を設定する。

生徒の変容

公開研究会の授業より

落ち着いた話し合い 意欲的な話し合い 自分の言葉での表現

基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図り、生徒の思考力、判断力、表現力を育む指導のあり方を考える

～生徒の表現力を高める学習指導の工夫を通して～

佐倉市立西志津中学校

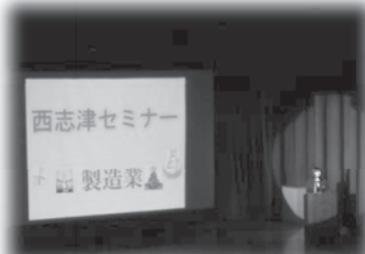
西志津中学校では、平成22・23年度佐倉市教育委員会「表現力」研究モデル校指定を受け、研究を進めてきました。学校の特色、生徒の実態を踏まえて、生徒一人一人に基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と確かな学力（思考力、判断力、表現力等）を育む教育活動を推進してきました。平成23年12月16日の研究会では、その成果を公開しました。

【研究の目標】

- 基礎力を高め、自ら学び、生き生きと学習できる生徒の育成
- 進んで学習に取り組み、確かな学力（思考力、判断力、表現力等）を高める生徒の育成
- 「好学進取」の気風を持った「自ら学び考える力」を身につけた生徒の育成
- 自ら考え、目標を持って行動し、継続した活動ができる生徒の育成
- 豊かで思いやりのある心を持ち、地域貢献ができる生徒の育成

【仮説1】基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図ることにより、生徒に学ぶ意欲を高めさせ主体的に問題を解決する態度を身につけることができるであろう。

【仮説2】各教科等及び各学年間相互の関連を図り、系統的・発展的な学習指導を通し、生徒の自主的・自発的な学習を促すことによって、生徒の表現力を高めることができるであろう。



【第1学年：探ろう西志津セミナー】

様々な職種で働く方々の話を聞き、自分を見つめ直し、自分の生き方を考えます。

【第2学年：語ろう職場体験】

実際の職場での勤労体験を踏まえ、社会の一員としての自覚と自己の生き方をさらに深めていきます。



【第3学年：創ろう修学旅行】

人々とのふれあいから生き方への広がりも見据え、日本の伝統文化を探究し、自分の思いを俳句に託します。



「表現力を育むために取り組んできた手立て・・・

「わかりやすい授業」

「自分の考えを発表する場の確保」

「自力解決の場の確保」

「言語環境の整備」

〔平成23年度佐倉市教育センター等報告会〕から

1. はじめに

佐倉市教育センター等報告会は、佐倉教育の日の関連事業として、毎年実施しているものです。本年度で8回目の開催となりました。

今年度の、佐倉市教育センター等報告会の様子を紹介いたします。

2. 研修の概要

- 会 場 佐倉市立美術館 4階ハイビジョンホール
- 参加人数 53名
- 発表者及び発表内容
 - 第1発表 佐倉市立根郷小学校 教諭 中村 千草 先生
「子どもたちの確かな学力を培う総合的な学習の時間のあり方」
～学習協力者との関わりをもった探究的な学習を通して～
 - 第2発表 佐倉市立下志津小学校 教諭 中村 光宏 先生
「思考し、表現する力を育む理科学習」
～結果の整理からまとめの段階を大事にした学習の考察～
 - 第3発表 佐倉市教育センター 指導主事 水嶋 智巳
「言語活動を位置付けた学習指導法の工夫・改善について」

【第1発表での様子及び概要】



【研究仮説】

探究的な学習の過程において、学習協力者（地域や保護者等）との連携や協力を意図的・計画的に取り入れることで、子どもたちの学びの質を高め、確かな学力を育成することができるだろう。

次のような学習活動で、学習協力者が意図的に関わり、協同的に学習活動を行うようにしました。

〈多様な情報を活用して協同的に学ぶ学習活動〉
〈異なる視点から考え協同的に学ぶ学習活動〉
〈力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ学習活動〉

【成果】・少人数での話し合い、個別のアドバイス等の関わりから、思考力・判断力・表現力の向上が見られた。

【課題】・児童の実態に合わせ、単元を見通した指導内容や学習協力者の方法・内容について、柔軟に変化させていくことが必要である。

【第2発表での様子及び概要】

【研究仮説】

- 1 観察・実験を充実し、その記録や結果を図表やグラフなどに書いたりする思考の場を設定し、指導・支援の手立てを工夫すれば、予想に対する考えを生み出し、表現することができるだろう。
- 2 他者の考え方と自分の考え方を比較・検討したり、関連づけて話し合ったりする思考の場を設定し、指導・支援の場を工夫すれば、自分の考え方を振り返り、より考え方を深め、表現することができるだろう。



【成果】・「どこでもシート」を活用して、話し合いを進めたことで、意見交流が進み、考察を深めることができた。

【課題】・学習カードの改善を通して、児童が自分の考え方をより明確にもてるようにしていくことが大事である。

【第3発表での様子及び概要】

言語活動の充実を図っていくために…

- ・根拠→思考、判断→表現という学習過程
(→に言語活動を位置付け充実させていく)
- ・言語活動は、教科目標を達成するための1つの手だけ
- ・ジグソー学習等、効果的な学習法の活用
- ・国語科で学んだことを活用

【言語活動を位置付けた授業づくりの構成】

- 〈ステップ1〉 つけたい力を見極め、設定
- 〈ステップ2〉 つけたい力にふさわしい
言語活動を位置付ける
- 〈ステップ3〉 言語活動が課題解決の
過程になるように設定
- 〈ステップ4〉 思考や判断したことが表現
できる学習活動を具体化

学習指導要領における言語活動のイメージ

思考力、判断力、表現力等の育成



【各教科における言語活動の充実を図った 学習活動例】

- ①体験から感じ取ったことを表現する。
- ②事実を正確に理解し伝達する。
- ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり
活用したりする。
- ④情報を分析・評価し、論述する。
- ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善
する。
- ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考え方や集団の
考え方を発展させる。

記録、要約、説明、論述などの具体的な言
語活動を行い、工夫改善・充実を図る

【中核的教科である国語科】

各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探求することのできる
国語の能力を身に付けること。

3. まとめ

センターでは、今後も各校のよりよい実践例を紹介していくとともに、今日的な教育課題に関する調査研究に取り組み、先生方への助けとなるような手立てや支援を引き続き行っていきたいと考えています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

(文責 水嶋 智巳)

相談の現場から

教育センターの「発達相談」も4年目となりました。よりきめ細かな対応ができるよう、今年度からは発達の相談員を1名増員し、相談員3名体制で日々の相談に臨んでいます。

今回は、主に中学生の相談を担当している藤田相談員にお話をうかがいました。

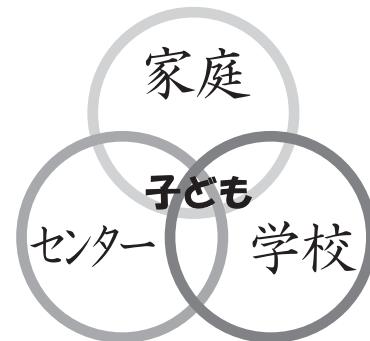
～発達相談に取り組んで～

相談にあたっていて一番感じることは、「早期発見・早期支援」の大切さです。小学校の低学年とは異なり、高学年や中学生は自我の目覚めとともに問題のありようが複雑になっていきます。相談のきっかけとなる主な訴えに不登校が増えています。学習面もさることながら、コミュニケーションが苦手で自己表現がうまくできず、対人関係に困り感がある場合、発達にその因子を考えてみてもよいのではと思います。

～検査のとらえ方～

相談の展開にもよりますが、発達検査をご提案する場合があります。また最近では保護者のほうから検査を希望されるケースも増えています。検査に当たっては充分な配慮はもちろんのこと、結果の扱いについても家庭の意向を尊重しています。検査はその性格上、就学指導につながる資料になりますが、そのためだけではなく、特に中学生の場合「自分を見つめ直す」機会になり得るのです。お子さんが自分の得意・不得意を理解して新たな自分を自覚することにより、その先の進路を考えていくきっかけになる場合が多く見られます。

以上のようなとらえ方を先生方にもご理解いただければ幸いです。



～保護者支援の視点～

相談を受けていると、保護者の方が堰を切ったようにお話をされることがあります。特にお母さんが心おきなく話しができる環境が、実は少ないのでかもしれません。不登校のように、保護者がその問題に日々直面している状況ですと、家庭の、特に母親の負担感は想像を超えるものがあります。本人を中心にながら、お母さんへの支援がうまくいくと、お子さんの状況もプラスに転じることが多いようです。お子さん本人への支援はもちろんですが、直接の学校関係者ではなく、第三者的な立場から保護者の皆様を支えていくことも、教育センターの使命の一つなのではないかと考えています。

これからも家庭・学校・センターがそれぞれの役割をうまく連携しながら、お子さん本人に働きかけていくことで、さらなる成長につなげていけばと思います。

(談：学校教育相談員 藤田英子)

編集後記

今回は「“さくら”学びの窓」「センター等報告会」を特集しました。各学校の貴重な実践例をきっかけに、情報交換を通してお互いを高めあうことができるよう願っています。また、現在センターでは「佐倉市学習状況調査」の集計分析を進めています。3月中旬に報告書を発行します。データから教育課題を把握し、実際の支援につなげていただければ幸いです。